

2022年度  
保育士等キャリアアップ研修

子どもの発達を見る目  
保育をどう意識するか（発達過程の意識化）

松山東雲短期大学名誉教授

児嶋雅典

# 1、この研修の目的

## 目的

さまざまな発達過程を意識（自覚化）すること

※ 10の姿は知っていても、そこに至る具体的な発達過程（育ちの流れ）を知らなければ



待てなくて子どもを追いかけてしまう



保育者も無理をして子どももしんどくなる

## 2、発達を見守る視点をもつ

発達過程を知ることとは発達を見守る視点をもつこと

子どもの健全な発達を見守るために

**5領域と10の姿**が示されている(必要最小限)

保育者としてはたくさん持っていてほしい

- 順番を譲れるまで過程
- ゲームができるまでの過程
- 協同遊びまでの過程
- 劇遊びの過程

# 3、保育の見通しと可視化

## 発達過程理解の二つの意味

### 1、自分自身の発達理解の確認

発達を線で見守るためには必須  
子どもに無理をさせない

### 2、子どもの発達を家庭に伝える

発達の見通しを家庭に伝える  
育児不安の軽減



## 4、幼児期の終わりまでの10の姿

健康な  
心と体

自立心

協同性

道徳性・  
規範意識  
の芽生え

社会生活  
との関わり

思考力  
の  
芽生え

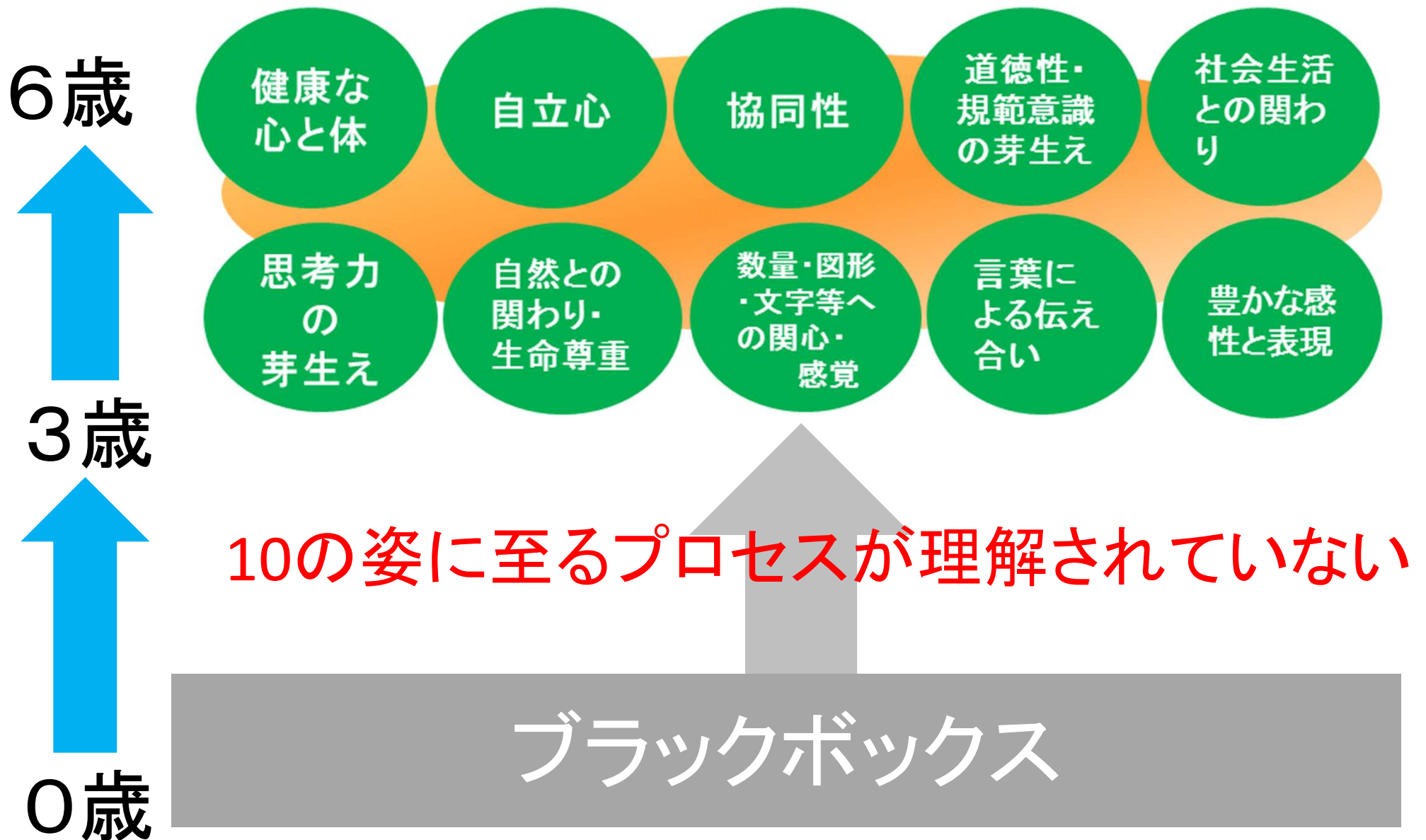
自然との  
関わり・  
生命尊重

数量・図形  
・文字等へ  
の関心・  
感覚

言葉に  
よる伝え  
合い

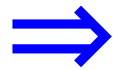
豊かな感  
性と表現

## 5、10の姿の発達過程



## 6、保育者の考え方の重要性

保育者の考え方や意図によって  
子どもへのかかわり方が変わる



子どもの反応が変わる  
そして、**子どもの育ちが変わる**  
だから、考え方を研修する必要

## 7、考え方や意図を自覚する

- 自分はどのような**子どもの見方**をしているのか
  - **発達過程の理解**は確かなのか
  - 目指す10の姿はどのような順序をたどるのか
- 10の姿は理解していても**そこに至る順序**や**具体的な働きかけ**をどうするのか、**育ちを見守る視点**はあるか

## 8、保育者の考え方は最も重要な環境

○ 保育は「**環境**を通して行う教育」  
園舎、自然、生き物、人的な環境、行事など

その中で最も重要なのは**保育者の考え方(意図)**

立派な園舎があっても  
すばらしい自然環境があっても  
遊具や生き物がたくさんあっても

**保育者の考え方によっては生かせない**

# 9、カリキュラム・マネジメント

平成30年の改訂で使われた言葉

その意味は

幼稚園や保育所で生活する子どもの経験を  
保育者が意識することの重要性

例えば、○10の姿に至る順序を具体的に想定する

○ 行事や散歩で大切にしたいことは何か

○ 文字や数字と子どもとをどのように出会わせるか

# 10、教育と保育との違いは？

世の中の多くの人

幼稚園は教育するところ

保育所は保育するところ

役所的にもこの分け方がなされることがある

でも、本当は幼稚園も保育所も **その年齢に  
応じた教育をするところ** **それが保育**

つまり、両方とも教育で、**年齢に相応しい教育が保育  
ということ**

# 11、幼稚園だから教育

○ 幼稚園だから教育ではなく、保育所であつても教育は必要

※ 同じ日本の将来を担う子ども、どの子にも最上の教育を

※ 保育所でも子どもを預かり無事に返すだけでは不十分  
子どもの年齢に応じたさまざまな働きかけ(教育)が求められる（子どもと会話を積極的にすることが基本）



# 12、保育は子どもとの会話

## ○保育における会話とは

年齢や月齢に応じた表情、声、ことばがけ、スキンシップ、ことばのやりとり、絵本、お話、クイズ、うた、ダンス、散歩など子どもと一緒にすること全般

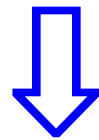
## ※ 会話や生活の中で子どもの発達を観察する

頼みごと、色、身体の部位、形、助詞、記憶の確認、遊び方（砂、ブロック、）、手足の使い方（バナナやミカンの皮むき、食器、スライダー、三輪車、ブランコなど）

⇒年齢に応じた教育

## 13、発達を観察し、確認する

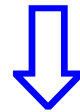
- 子どもの発達は見ようとしなければ見えない
- 養成校で発達過程を具体的に学んでいない  
教えられる教員が少ない
- 毎日の保育の中では忙しさでかき消される



その結果、**発達過程（発達の流れ）を意識しにくい**

## 14、保育者の専門性で最も大切なこと

- この問いにどう答えますか
- 学生さんは、優しさ、笑顔、相手への思いやり



優しさ、笑顔、思いやりはどの仕事にも大切

※保育者にどうしても欠かせないことは

**子どもの発達過程の理解**（発達の流れ）

# 15、発達段階の考え方

- 以前は、「発達段階」という言葉がよく使われていた  
しかしこのことによる誤解も広がった



子どもの発達は多様であるはずなのに  
年齢で子どもの発達を見る傾向になったこと  
例えば、1歳だから歩くはずだ

2歳 二語文で、両足跳びができるはずだ

3歳であれば身の周りのことができるはず

# 16、発達過程の考え方

- 発達段階では誤解されるので発達過程を使うことに  
発達の方法と速度は個人差が大きく個性的である  
一定の速度と一定の順序で発達しない(早くなったり、  
遅くなったり、停滞したりする)
- しかし、どの子も一定の順序で発達をとげることは共通している(未分化から分化へ、中央から末端へなど)

発達過程は、個人による発達の速さの違いに考慮しながらも一定の順序と規則性に注視する

## 17、発達理解は保育者の行動を変える

- 遊びを見守る視点ができる
- 子どもへの関わり方が変わる
- 子どもの遊びや生活を優しく、穏やかに笑顔で見られる(子どもへの肯定的な視点)

一般の人は子どもに大人の物差しをあてようとする(子ども観や保育観などの学びをしていないから)

## 18、発達過程の理解と援助

- 自己中心的な考え方から周りの中の自分の役割や立場に気づいて行くことは理解できる

だが、**その過程の見守り方**はどうだろうか？

例えば、3歳児がブランコに乗っているところに他の子がやってきて、「乗りたい」と言われたときどうしますか？

# 19、「ガンピーさんのふなあそび」

○例えば、ジョン・バーニンガムの絵本

『ガンピーさんのふなあそび』（ほるぷ出版1976）

普通の絵本として見ることもできるが、保育者の  
あるべき姿として読みとることもできる

つまり、発達を理解していれば、**子どもにやさしく  
かかわることができる ⇒ これが本来の保育者**







全国学校図書館協議会選定図書

ジョン・バーニンガム  
ガンピーさんのふなあそび

ほるぷ出版

# ガンピーさんのふなあそび

ジョン・バーニンガム さく みつよし なつや やく





# ガンピーさんのふなあそび

ジョン・バーニンガム さく みつよし なつや やく



ほるぷ出版



MR GUMPY'S OUTING

Copyright © 1970 by John Burningham.

Originally published by Jonathan Cape Ltd, London.

Japanese translation rights arranged with Jonathan Cape Ltd, London through Tuttle-Mori Agency, Inc., Tokyo.

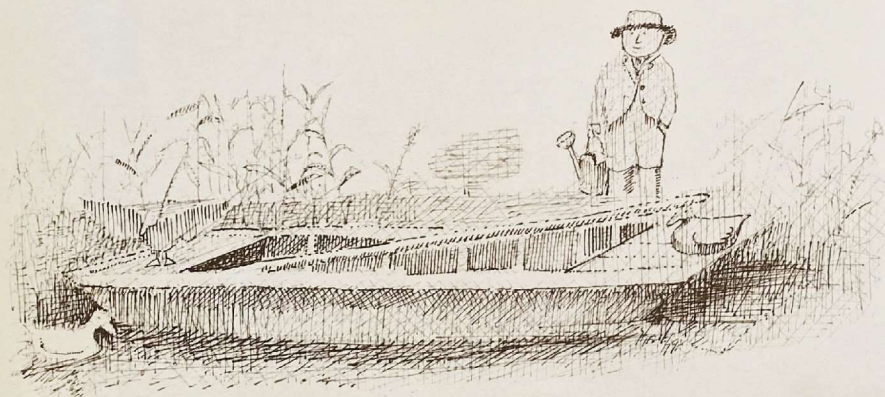
Japanese language edition published by Holp Shuppan, Publishers, Tokyo.



これは ガンピーさんです。

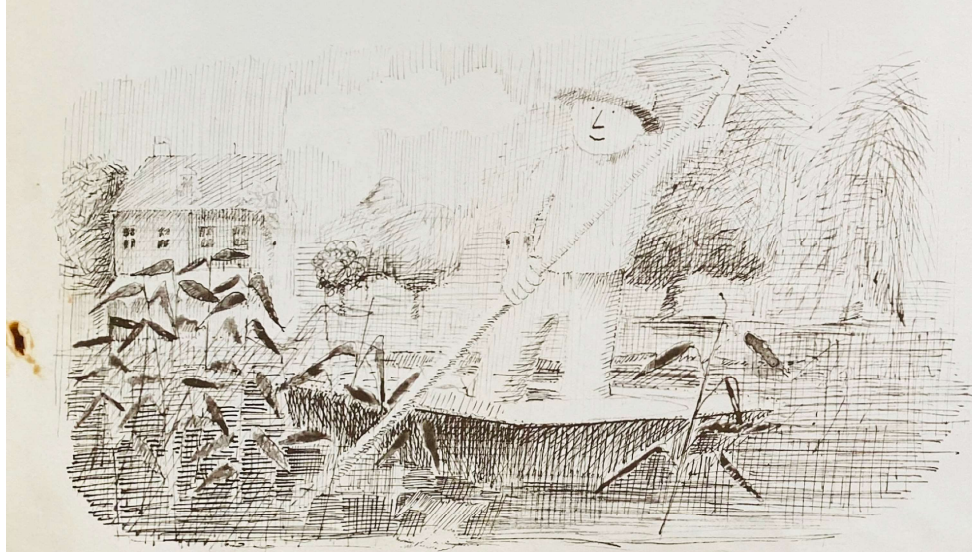


ガンピーさんは ふねを いっそう もっていました。  
いえは かわの そばに ありました。





あるひ、ガンピーさんは ふねに のって でかけました。  
「いっしょに つれてって」と、こどもたちが いいました。  
「いいとも」と、ガンピーさんは いいました。  
「けんかさえ しなけりゃね」





「わたしも いっしょに いって いい、ガンピーさん？」  
と、うさぎが いいました。  
「いいとも。とんだり はねたり しなけりゃね」





「あたしも のりたいなあ」と、ねこが いいました。  
「いいとも」と、ガンピーさんは いいました。  
「うさぎを おいまわしたり しなけりゃね」





「ぼくも つれてって もらいたいなあ」  
と、いぬが いいました。  
「いいとも」と、ガンピーさんは いいました。  
「ねこを いじめたり しなけりゃね」





「わたしも おねがい、ガンピーさん」

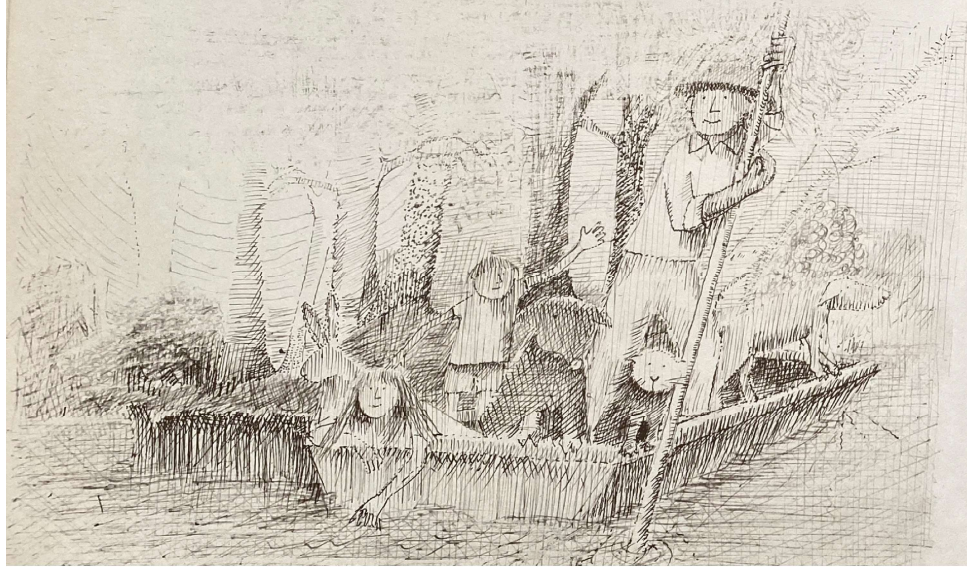
と、ふたが いいました。

「いいとも。でも、うろちょろするんじゃないよ」





「あたしも のれるかしら？」と、ひつじが いいました。  
「のれるとも。でも、めえ めえ なくんじゃないよ」





「あたしたちも いって いい？」

と、にわとりが いいました。

「いいとも。でも、はねを ぱたぱた やるんじゃないよ」

と、ガンピーさんは いいました。





「ほくも どこかに のせてって」  
と、こうしが いいました。  
「いいとも。でも、どしんどしん  
あるきまわるんじゃないよ」





「わしも のっていいかな、ガンピーさん？」  
と、やぎが いいました。  
「いいとも。でも、けったりするんじゃないよ」



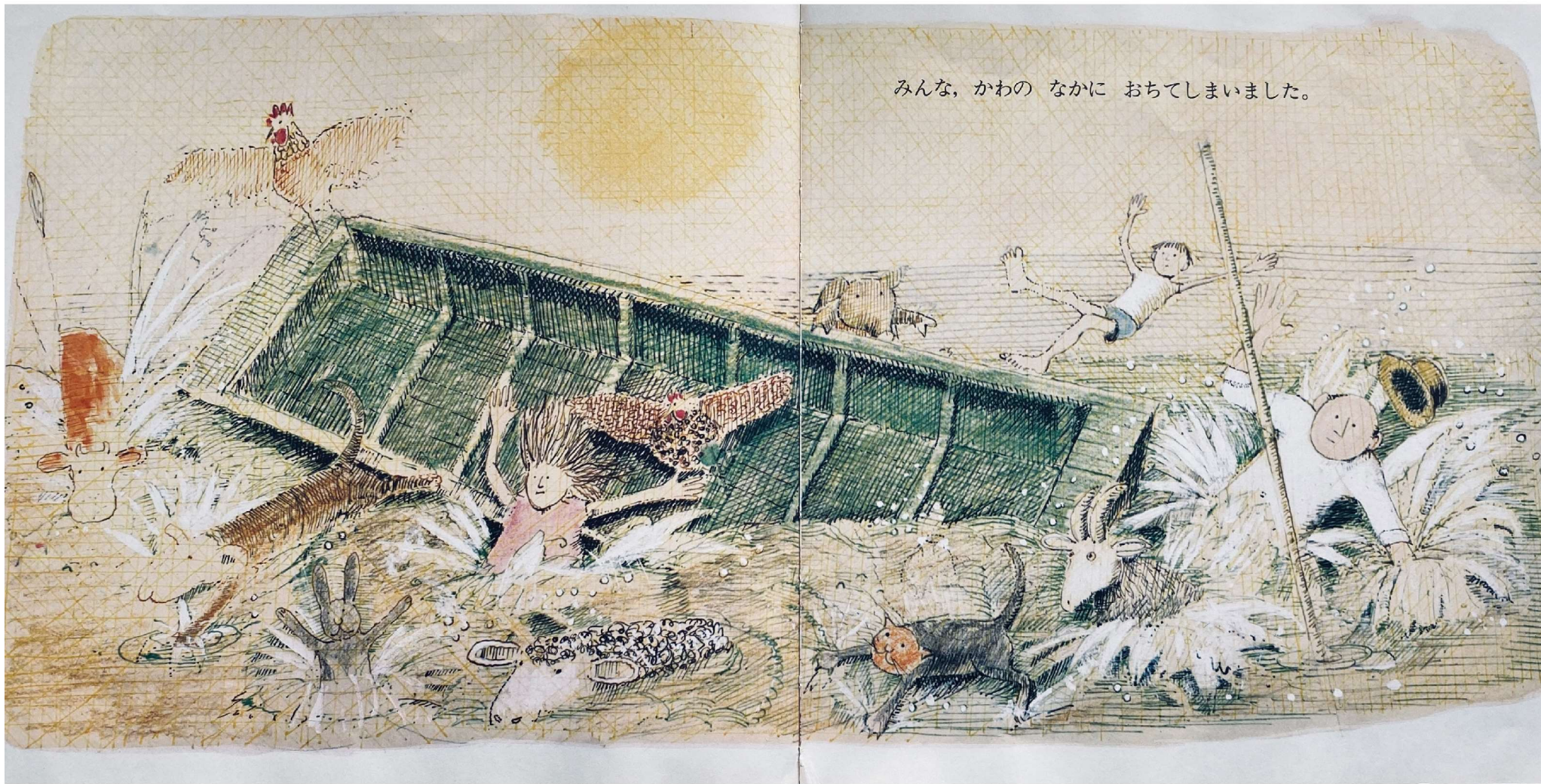


しばらく、みんなは たのしそうに  
かわを くだって いきました。  
ところが、そのうち……  
やぎが けつとばし、  
こうしが どしんどしん あるきまわり、  
にわとりたちが はねを ばたばた やり、  
ひつじが めえ めえ いい、  
ふたが うろちょろし、  
いぬが ねこを いじめ、  
ねこが うさぎを おいかけ、  
うさぎが ぴょんぴょん とびまわり、  
こどもたちが けんかをし、  
ふねが ひっくりかえって……





みんな、かわの なかに おちてしまいました。





それから、ガンピーさんと やぎと こうしと にわとりと  
ひつじと ふたと いぬと ねこと うさぎと こどもたちは、  
きしまで およぎついて、どてに あがり、あつい  
おひさまに あたって からだを かわかしました。  
「かえりは のはらを よこぎって あるいていくとしよう」  
と、ガンピーさんは いいました。  
「そろそろ おちゃの じかんだから」











「じゃ、さようなら」と、ガンピーさんは いいました。  
「また いつか のりにおいでよ」



ジョン・バーニンガム (John Burningham)

1963年に初めて出版した絵本『ホルカ』でケイト・グリーナウェイ賞を受賞、その後、『ガンピーさんのふなあそび』でも同賞を受賞しています。ジェームズ・ボンドでおなじみの『007』シリーズの作者、イアン・フlemingと共同で、自動車「チキ・チキ・バン・バン」のモデル設計もしました。バーニンガムの作品は、オペラ化されたり、人形劇になったり、世界中で大へんな人気です。1971年には、80日間、44000マイルの世界一周旅行をし、日本にも立ち寄り、絵本『80日間世界一周』を出版しました。現在は有名な絵本作家である、奥さんのヘレン・オクセンバリー、それにふたりの子どもたちと、ロンドン北西部のハムステッドに住んでいます。

ガンピーさんの  
ふなあそび

1976. 9.20 第1刷発行  
1992. 3.1 第23刷発行

★作／ジョン・バーニンガム  
★訳／光吉夏弥  
★発行／株式会社はるぶ出版 代表 福島龍哉  
〒113 東京都文京区本郷3-15-2 電話 03-5654-8871  
★製作／株式会社トーレン  
★印刷／株式会社精興社  
★製本／有限会社東明製本

ISBN 593-50030-3

NDC933 32P 26×26cm





# 20、ガンピーさんはなぜ叱らない

## ○条件をつけて舟に乗せる

子ども 「けんかさえしなけりやね」  
うさぎ 「とんだりはねたり しなけりやね」  
こうし 「どしんどしん あるきまわるんじゃないよ 」  
ぶ た 「うろちょろするんじゃないよ 」  
ひつじ 「めえ めえ なくんじゃないよ 」  
や ぎ 「けったりするんじゃないよ 」

※ どれもその**生き物の特徴で本質的**なもので、  
それをしなければその生き物ではない（**条件は無理**）

## 21、なぜ、注意(約束)をするのか

○それぞれの生き物の特徴で本質的であるなら守れないはずなのに、なぜ約束をするのか？



※ 無理でもガンピーさんには伝えたい思いがある  
この場合は「舟が転覆しては困る」

多分、生き物の特徴だから守るのは無理だろうな、  
今日は転覆するかもしれない（覚悟）

だからやさしく見てられるし、叱らない



## 22、保育者もガンピーさんのように

○ガンピーさんを発達を理解した保育者に、それぞれの生き物を個性的な子どもに置き換える



※ 4歳児くらいまではブランコを譲るのは難しい  
それでも保育者には伝えたい思いがある

相手の子の気持ちに気づいて、できれば代わってほしい

だから、おだやかに「代わってほしいんだって、どうする？」と伝えてみる（無理だろうなと思いながらも）

## 23、根拠のあるやさしさを

○ガンピーさんは叱ったりしないが、それは単にやさしいのではなく、**根拠**がある

もともと ドシン ドシン歩くのがこうしなのだからできなくても仕方ない でも転覆はできれば避けたいので伝えるだけは伝えよう でも、できなくても当たり前だから叱ったりないでおこう



今回は転覆してしまったが、**次はどうなるかな**  
少しお利口になれるかもしれない (**期待感**)



## 24、追いかけない保育 待ち伏せる保育

ガンピーさんから学ぶこと

○子どもの発達過程を理解していなければ、  
子どもに大人の物差しをあてようとする



その結果、子どもを追いかけることになりやすい  
追いかけられると子どもは逃げたくなる

○発達過程を理解していると  
追いかけずに待てる（ガンピーさんのように）

## 25、待ち伏せる保育を

○どの子も速さは異なっても同じように発達（発達過程）するのであれば、**予想を立てられる**。

○予想を立てる ⇒ **発達を線で見ること（見通しをもつ）**

保育現場では、保護者に**子どもの育ちの見通し**をあまり伝えていないのではないか

保護者の不安は子どもの現状ばかり見て（**発達を点で見ると**）、この先どうなるかを知らないことから生まれている ⇒ だから**発達を線で伝える**ことを意識すべき

## 26、点で見る<sub>(保護者)</sub>と線で見る<sub>(保育者)</sub>

※ 子どもは良く見えたり、悪く見えたりをくり返しながら育つ(同じ速さで右肩上がりでは育たない)

○ 現在の姿だけを点で見ている保護者は不安になりやすい

○ 保育者は、現在の姿はもちろん、それを過去と比べたりこれから先の予想をもって線で見える



## 27、悪く見えるのも発達の現れ

○悪く見える姿は知恵がついてきた証拠

○イスとりゲームで席から離れない(とられないように考える)  
ズーと座っているとつまらなくなる、友達の楽しそうな様子を見て参加したくなる、だから誘うけれども叱らなくてよい

○ズルをする(勝つにはどうするか考える)

勝ったものの相手から「ずるい」と言われる、堂々と勝ちたくなる、だから様子を見てほしい、叱らなくてよい

## 28、幼児期の大きな変化

おおよそ4歳までと5歳以降の大きな違い

○自己中心性



(幼児期のエポック)

○周りから見た自分への気づき

※ 遊びや生活の全体に現れる





## 29、絵本 『わたし』

谷川俊太郎 文 長 新太 絵(福音館書店 初版1976 )

※ 長年子どもたちに親しまれてきた絵本の名作

谷川俊太郎は日本を代表する詩人 言葉を精選した作品は文としても音としても質が高い(絵本も多い スイミー、マザー・グースのうた、もこもこもこ、ことばあそびうた、など)

**保育実践では発達理解が必須**

中でも4歳以前と5歳過ぎた子どもの大きな違いに注目  
身体面の違いも大きい、**ものごとの考え方にも注目**

## 30、4歳半ばくらいまでの育ち

○4歳半ばまでは、（大人に促されれば別だが）**全体の中の自分を意識できない**、だから



- **役割分担**をして遊ぶことは少ない
- **劇遊び**を役割を決めて演じるのがむずかしい
- **ルールのある遊び**の理解がむずかしい
- 遊びの前に（これして遊ぼうという）**設計図**がない
- **順番**を譲ったり**当番**を自主的することは少ない
- 友だちの**トラブルの仲裁**はまだ難しい

## 31、5歳児は自分を他者の目で見える

※ それは全体の中での自分の役割を理解することでもある だから



- ・当番や係ができる
- ・ダム遊びをしていて、水を運んでいても、山を作っているでも「**ぼくたち**ダム作りしてるんだよ」と言う
- ・友だちの**トラブルの仲裁**ができる
- ・遊びの前に**設計図（見通し）**がある
- ・**仲間意識、帰属意識**がもてる



## 32、5歳児の遊びを支えるものは

※ 5歳児の遊びを支えているのは以下の育ち

- ・ **言葉(知的)の育ち** 一かなり自由に自分の考えを相手に伝えることができるし、情報の交換もできる
- ・ **手や指先の育ち** 一指先の器用さを獲得して思うように道具を使ったり、製作や力加減ができる
- ・ **友だち関係の広がり** 一お互いの性格や得意なことなどを長い園生活の中で理解しあっている
- ・ **目標と方法がはっきり**している 一こんなことをしたい気持ちが強いので簡単にはあきらめない



わたし 谷川俊太郎 文 長新太 絵

NDC 361 28P 25×22 cm

1976年10月1日かがくのとも発行 1981年2月2日かがくのとも傑作集 第1刷 2017年8月1日 第38刷  
発行 株式会社福音館書店 〒113-8636 東京都文京区本駒込6-6-3 電話 販売部03(3942)1226 編集部03(3942)2083  
印刷 日本写真印刷/製本 多田製本/ Published by Fukuinkan Shoten Publishers, Inc., Tokyo, Japan. <http://www.fukuinkan.co.jp/>  
I MYSELF Text © Shuntaro Tanikawa 1976. Illustrations © Fumi Suzuki 1976. Printed in Japan

「かがくのとも絵本」は、月刊科学絵本「かがくのとも」から生まれました。第32刷より、シリーズ名を「かがくのとも傑作集」から「かがくのとも絵本」に変更いたしました。乱丁・落丁等は、本社出版部へご連絡ください。送料・送料負担にてお取り替えます。紙のしや本のかどで手や指などを傷つけることがありますのでご注意ください。



9784834008470



1928736009007

わたし

このシールははがせます。

わたし



谷川俊太郎 長新太

かがくのとも絵本



かがくのとも絵本

読んであげるなら 4才から

じぶんで読むなら 小学校初級から

福音館書店 定価 (本体 900 円 + 税)

ISBN978-4-8340-0847-0 C8736 ¥900E

# わたし

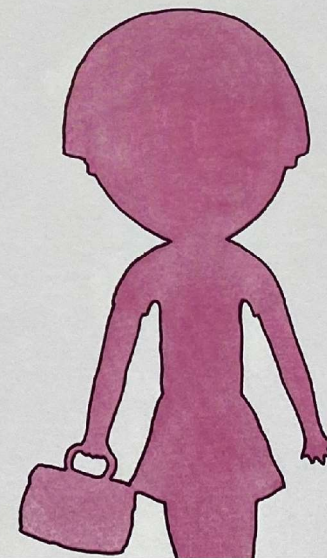
たに がわし じゅん たろう ちやう しん た  
谷川俊太郎ぶん 長 新太え





# わたし

谷川俊太郎ぶん 長 新太え



福音館書店



わたし



おとこのこから みると  
おんなのこ







あかちゃんから みると  
おねえちゃん



おにいちゃんから みると  
いもうと







おかあさんから みると  
むすめの みちこ



おとうさんから みても  
むすめの みちこ







おばあちゃんから みると  
まごの みちこ



けんいちおじさんから みると  
めいの みっちゃん





わたし



さっちゃんから みると  
おともだち



せんせいから みると  
せいと





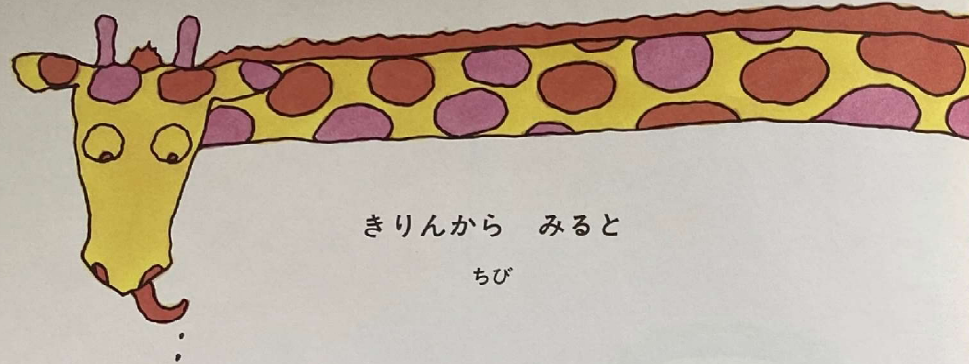
となりのおばさんから みると  
やまぐちさんの したの  
おこさん



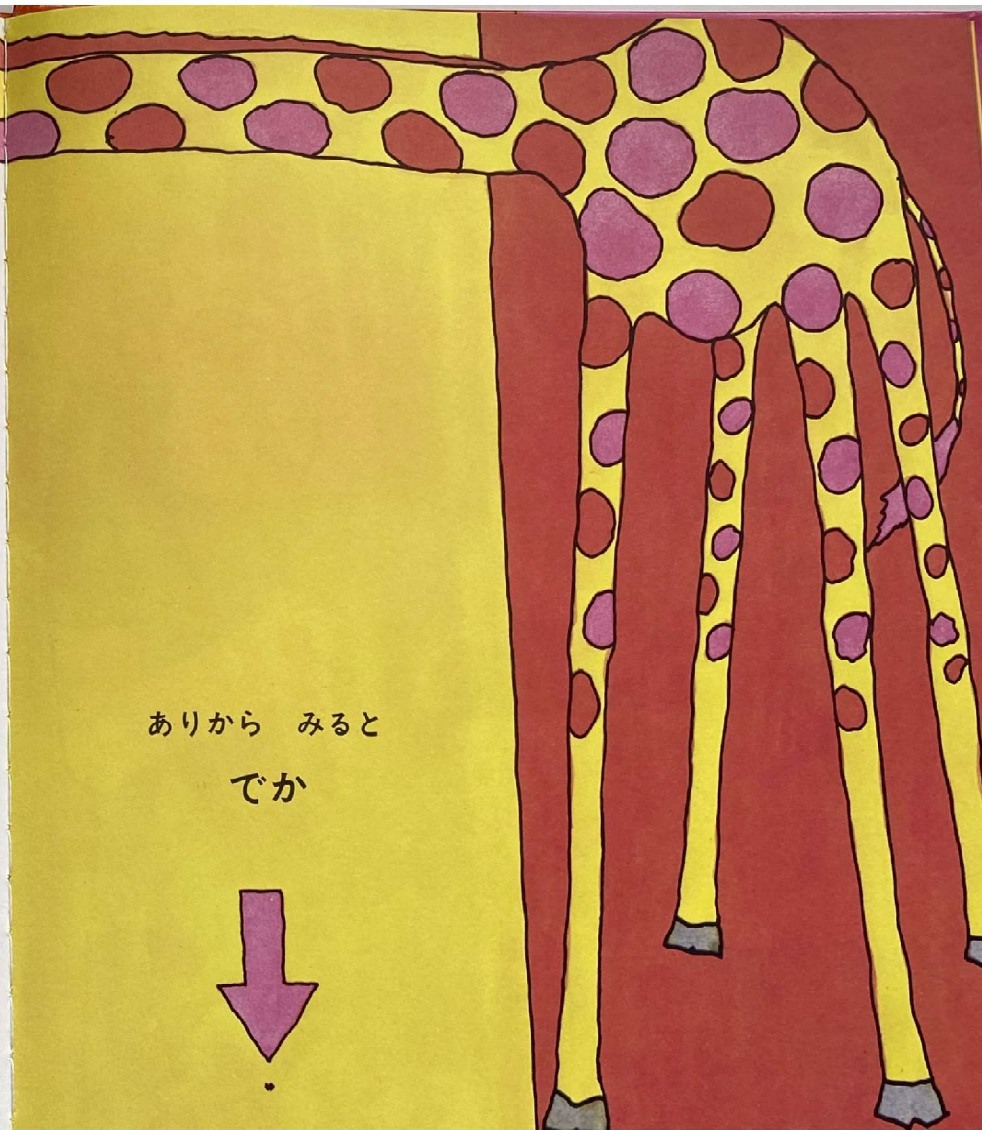
ごろうから みると  
にんげん



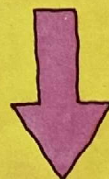




きりんから みると  
ちび



ありから みると  
でか







がいじんから みると  
にほんじん



うちゅうじんから みると  
ちきゅうじん



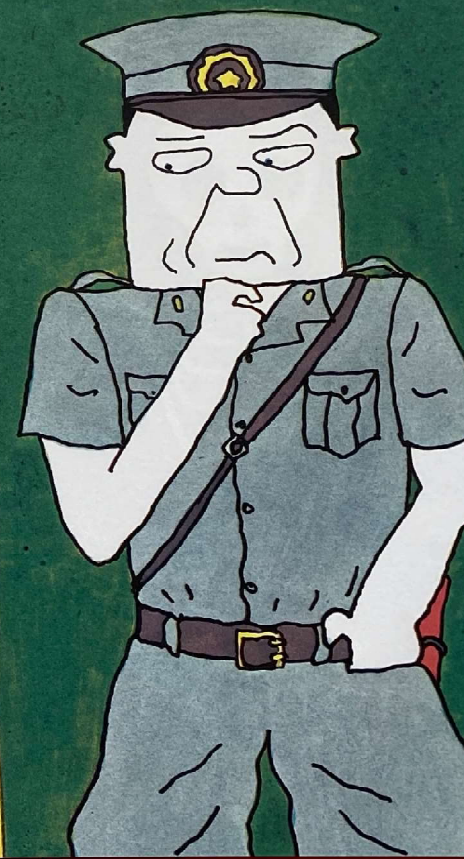




えかきさんから みると  
もでる



おまわりさんから みると  
まいご?





わたし



おいしゃさんから みると  
やまぐちみちこ 5さい



れんとげんでみると

!



れすとらんへ いくと  
おじょうさん



23

おもちゃ屋さんへ いくと  
おきゃくさん



22





えいがかんへ いくと  
こども

|    |       |
|----|-------|
| 大人 | 1200円 |
| 小人 | 800円  |



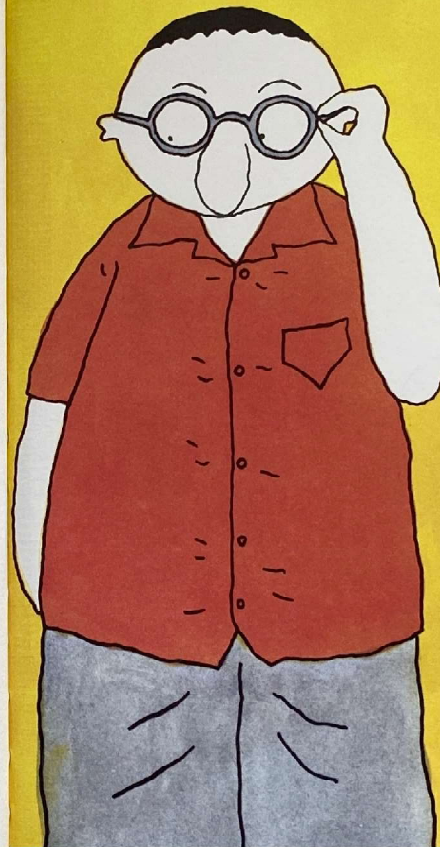
どこかの みちこちゃんから  
みると  
おんなじ なまえのこ



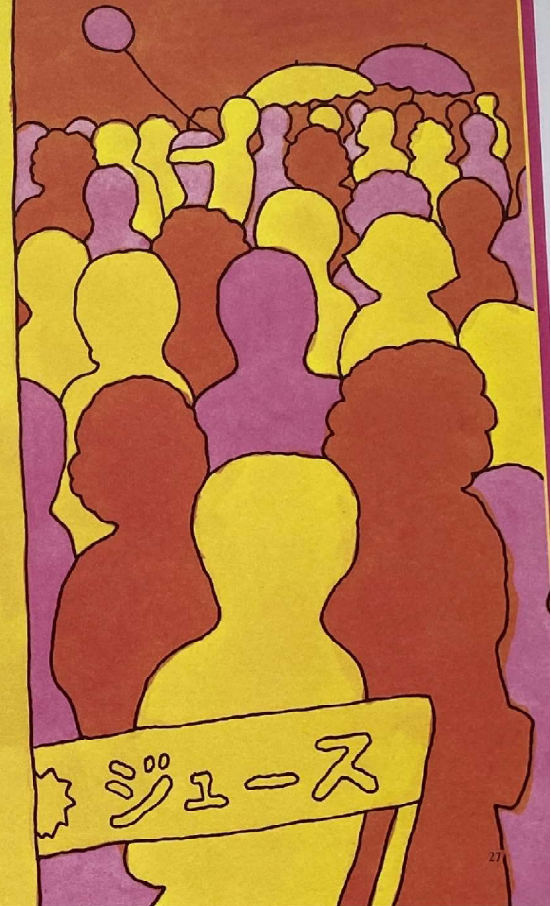
わたし



知らないひとから みると  
だれ？



ほこうしゃてんごく では  
おおぜいの ひとり











## 33、絵本『わたし』から学ぶこと

- それは、4歳くらいまでと5歳からとでは発達が大きく違ってくること

自分中心から抜け出して

周りの中での自分に気づく方向へ

遊び方や生活の仕方を見ても明らか

(※ 別添資料あり)

# 34、4歳近くまでは自分中心の世界

## ○わがままに見えても健全な発達

- ・自分中心の世界に生きていて周りが見えないだけ
- ・相手の気持ちが分からないのは当然のこと
- ・トラブルは多いが相手を憎んではない  
(自分が遊びたいだけ、しばらく様子を見ていれば明らか)



大人のものさしで測らないことが大切

※ ルソーのいう「子どもの中に大人を求める」



## 35、ルソーの言葉

○人は子どもというものを知らない。子どもについて、まちがった観念をもっているので、議論を進めれば進めるほど迷路にはいりこむ。

○このうえなく賢明な人々でさえ、大人が知らなければならぬことに熱中して、子どもには何が学べるかを考えない。

○かれらは**子どものうちに大人を求め、大人になるまえに子どもがどういうものであるかを考えない**(子どもに大人の物差しをあてること)

※とくに悪く見えることに多い。自己中心なこと(我をはる、譲らない、貸さない、我慢しない、座ってられないなど)

## 36、子ども時代は独特な時期

○まずは何よりもあなたがたの子どもをもっとよく研究することだ。あなたが、子どもを知らないということは。まったく確実なのだから。子どもは大人の小型ではない。子どもは未熟な大人ではない。

○子ども時代は独特な時期である。明日のために、今日を犠牲にしてはならない。不確かな明日のために今日を生きるより、今日のこのときを精一杯生きさせよ。今日をしっかり生きることが、何よりの明日の備えになる。

## 37、「子どもは小型の大人」とは

- 子どもは大人の小型ではない。子どもは未熟な大人ではない
- 子どものうちに大人を求め、大人になるまえに子どもがどういうものであるかを考えない

この言葉の意味は？

それは 発達途上の子どもなのに大人と同じ物差しをあてること



## 38、大人のもののさしを用いると

- まだ、自分のものと他人のもののとの区別ができない時期に独り占めを強く叱る
- ものを確保することによって自己主張をしているのに、「悪い子だね、使っていないのにどうして貸してあげないの」と叱る
- まだ、今日と明日の区別もできない時期に「明日まで待ちなさい、どうしてわからないの」と叱る

○ルールの意味を理解できていない時期に「どうしてルールを守らないの」と叱る

○ズルをしたら相手の子どもにクレームを言わせたらいのに、大人が出ていき「あなたが悪い、謝りなさい」と言ってしまう

○子どもが必要と感じていないのに「どうしてしないの、悪い子になるよ」と無理に当番や係を要求する

- 現実と仮想の世界との区別ができない3歳児に「どうして嘘を言うの」と叱る
- 人間関係ができていないのに「あいさつは？」  
「ありがとうは？」と要求する
- 読んですぐに絵本の感想を要求したり、「どうして何度も同じ絵本を読ませるの？」と言ってしま  
う





# 1. 絵本の楽しみ方の変化

大人とのコミュニケーションからストーリーを楽しむまで

- ⇒ 絵の中に知っているものを見つける
- ⇒ 指を指す、声を出す
- ⇒ 保育者が応える「そうだね、ワンワンだよ」
- ⇒ 知っているものに言葉をそえる
- ⇒ ページ毎別の絵として見ている
- ⇒ ページをとばしても気づかない

- ⇒ストーリー絵本に気づく
- ⇒ページをとばすと気づく 元に戻される
- ⇒同時に自分を見つめはじめる
- ⇒今は幼く弱いけれどこれから先、大きく強くなる(時間の流れに気づく)
- ⇒記憶力も発達し、それを確かめようとして何度も読んでもらいたがる
- ⇒ある程度記憶すると読むふりをする
- ⇒数枚の絵を集めてストーリーを作る
- ⇒自分だけが読める文字を添えたりする
- ⇒友だちと劇にしたりする



## 2. お手伝いや当番、係り活動の変化

褒められることから役立てるよろこびへ

⇒ いつも小さい子として見られるのが不満

⇒ 自分もできることを見せたい誰かのお話をしたい

⇒ お手伝いで褒めてもらうのがうれしい

- ⇒ 他の人が褒めてくれることもあり他の人の役に立っているのがうれしい
- ⇒ 自分もお世話をしたい 他の人が喜ぶことをしたい  
(保護者的な立場になってみたい)
- ⇒ 当番をしなかったら生き物が困る(食べられない、汚れて病気になる)
- ⇒ だから自分が嫌でも当番をしなければならないことに気づく

### 3. 動物の飼育、植物の栽培

## かかわるうれしさから保護者的な満足

- ⇒ おそろおそろかかわる
- ⇒ 悲しいとき動物にかかわると慰められる
- ⇒ 丁寧にかかわるとおだやかな反応、乱暴にかかわると危険な反応(生き物でしか経験できない)
- ⇒ 動物は自分たちと同じように食べて排泄する生態に気づく(生き物の生態)
- ⇒ 家庭ではなかなか経験できない保護者的な立場のうれしさと責任を経験する



## 4. 人間関係の広がり

家庭を離れ初めて保護者以外の大人（保育者）に自分をゆだねながら友だちとの関係を広げる

- ⇒ 何をするにも保育者との関係
- ⇒ 特定の保育者との関係を中心に他の友だちと出会う
- ⇒ 友だちと一緒に生活しながらその特徴や性格を把握する
- ⇒ 遊びや生活は基本的に一人が多い

- ⇒ 保育者が間に入ることによって交流がはじまるが基本は**平行遊び**
- ⇒ 遊具をめぐるトラブルが多くなる
- ⇒ 様子を見ながら、おとなしそうでトラブルになりそうにない子と遊ぶ(気の合う子)
- ⇒ だが道具の使用や場所についてイメージが合わずに叩いたりする**トラブル**がしばらく続く
- ⇒ 保育者が間に入り**思いを代弁**してもらうことで相手の気持ちを知らされる

- ⇒同時に言葉を獲得し自分の思いを伝えることもできるようになる
- ⇒しかし、まだ自分中心に考える傾向があり悪いことは他の子のせいにして自分の非を認めたがらない(4歳頃)
- ⇒お互いに言葉を獲得するにつれ口げんかが増える(相手の非を言葉で責めたり、自分の正当性を主張する 5歳以降)
- ⇒相手の立場や主張を認め、受け入れるようになる



## 5. 母親からの独立

### 年齢に応じた自己主張の仕方をする

- ⇒ 母子一体の世界（愛着関係）
- ⇒ 後追い、人見知り（自分にとって大切な人とそうでない人との区別）
- ⇒ 思い通りにならないと泣きさけぶ（泣くことが手っ取り早い自己主張）
- ⇒ 徐々にひっくり返って泣くなど全身で抗議する
- ⇒ 「後でね」と言っても意味が分からない（2歳児には「後で」や「明日」は分からない、**子どもには、まだ時間の観念がないので、今しかない**）

⇒自分のものと他の人のものとの区別ができないので独占したが、(そのような仕方での自己主張をする **2歳頃**)

⇒親しい大人にだけ汚い言葉をいう(「あっちいって」「きらい」など **2～3歳頃**)

⇒自分でできるようになると「自分で、自分で」と言う(母親からの独立、例え、少し違っても一人でできたことを認め、**自立に誇りを持てるようにする3～4歳頃**)

⇒保護者と別れるとき、泣くようになるが、必ず戻ってくることが分かれると泣かなくなる(**時間の流れを理解しはじめる**)

## 6. ルールとの出会い

※ 楽しく遊ぶには「ルールがあった方がいい」と気づいてほしい

⇒ 面白そうなので加わる

⇒ 捕まりそうになりとバリアをする

⇒ 鬼のイメージが悪く、嫌なので抜ける

⇒ でも面白いのでまた加わる

⇒ バリアやタイムをする

⇒ 友だちからクレームがくる(ズルいと言われる)



⇒ 面白くするためにルールを修正する

⇒ バリアなし、安全地帯を作る、後出しジャンケンなしなど

⇒ 気持ちよく勝つにはルールがあった方がいいと気づく

⇒ 面白くするために捕まったらケイサツになる(ドロケイ)など自分たちで考える

## 7. 数や量

### 比べる必要性を経験してもらう

- ⇒ おやつするときなどにエビセンを5本くらい配る
- ⇒ 2歳くらいまでは数にあまりこだわりがない
- ⇒ 3歳になると数には気づくが大きさには気づかないことが多い
- ⇒ 4歳児は、数はもちろんその長さや大きさに気づく
- ⇒ 5歳児は数、長さ、量（体積）などにもこだわるようになる

ホットケーキをおやつに出し、子どもたちに選んでもらうと

⇒ 3歳児は大きさにあまりこだわらずに**数で**一つをとる

⇒ 4歳児は**平面的に**見て大きく見える一つをとる

⇒ 5歳児は横からも見て厚さを考えながら**立体的に**とる



## 8. 着脱のこと

してもらう経験から自分でできる自立の  
よろこびや誇りへ

- ⇒ 2歳くらいまでは自分では着たり、ボタンをはめることはむずかしい、脱ぐのはできることも多い
- ⇒ 3歳ではだいたいは自分でできるが、見えないボタンはむずかしい
- ⇒ 毎日、くり返される着脱で衣服の前後や、裏表、左右などを理解するようになる(知的な面)

⇒それと同時に身体についても理解が進む

⇒だからこの頃に頭足人から抜け出す

⇒4歳になると少し時間はかかるがだいたいは自分でできる

⇒5歳ではそれが早くきれにできるようになる

## 9. 歌うこと

コミュニケーションから一人歌い、合唱へ

- ⇒ 乳児への歌による働きかけは重要なコミュニケーションになる(声、表情、スキンシップ、散歩)
- ⇒ 幼いほど親しい大人とのコミュニケーションを求める
- ⇒ 乳児は口元を見つめ、音を合わせようとする
- ⇒ 歌を聞いてタイミングをとって合わせようとする
- ⇒ その様子を見て大人は合わせられるように繰り返し同じ箇所を歌う



- ⇒大人はそれにやさしく対応する
- ⇒合わせられるとよろこんであげる
- ⇒何とか一人で歌えるようになると自分で歌い、大人には歌わせない(自立のよろこび)
- ⇒音域の広がりにともない自分で歌えるようになると喜ぶが自分の声にしか関心がない  
(4歳くらいまで)
- ⇒うつくしい合唱などを聞くと他者の声にも関心が向けられる(5歳児)
- ⇒他者の声に合わせて自分の声を出そうとする

## 10.手洗い、片づけ

言われてすることから言われなくてもその  
必要性が理解できる方向へ

- ⇒最初は**保育者が率先**して片づける 遊びの形を  
取り入れて面白く誘う
- ⇒3歳くらいまでは大人に**言われると素直**に手洗  
いや片づけをするが、それが必要な理由を理解  
していない
- ⇒4歳くらいになると園での生活リズムを理解し、  
**次の活動の見通し**をもてるようになる

⇒もうすぐお昼だから手を洗おう、でもなぜ手を洗わなければならないのか理解しているわけではない(3～4歳児)

⇒5歳になると手を洗ったり、片づける必要性は理解しているが、さぼることもある

⇒でも、これは知恵の現れであり、これを含めて発達と考えたい



# 11. 統合保育

(障害をもった子を含めたクラス運営)

特別視するのではなくお互いを理解しあう  
共存社会へ

- ⇒ 自然な社会とは障害をもった人を特別視しない社会
- ⇒ さまざまなハンディをもった子が増えている
- ⇒ クラス運営には難しいことが出てくる
- ⇒ 「面倒」という思いをもっているとそれが本人はもちろんクラスの他の子に伝わる

- ⇒ クラスの中での偏見につながりやすい
- ⇒ ハンディをもった子への自分の思い(大切な子どもという思い)を伝える
- ⇒ それが他の子にも伝わり偏見で見られる可能性は少なくなる
- ⇒ いろいろな人が理解しあえる社会が普通のことになる
- ⇒ 偏見を持たずに一緒に生活する本来の人間社会へ(本来の統合保育の意味)

※ 学校のいじめの原因はこの辺りにあるのかも？

## 12. 順番をゆずる過程

⇒3歳くらいまではほとんどゆずらない(相手に「代わって」というが、自分が使っているときは「いや」という)

※ これは普通の姿で、意地悪ではない  
自分が遊びたいだけ

※ 保育者はできるだけ子どもにプレッシャーをかけないように

⇒3歳過ぎくらいからはゆずれる子も現れる  
(大抵は仲良しの子か年下の子)

その理由は、



保育者の目の圧力、  
保育者に褒めてもらえる、  
年上の誇り、  
ゆずったらまた一緒に遊んでくれる(知的な計算)



## 13. 文字への関心

※ 文字は、遠くに離れている人に自分の思い伝える手段

⇒ 靴箱やロッカーにひらがなとマークをつける

⇒ 自分の場所がある安心感

⇒ 毎日目にすることで「みちこ」のみと「めぐみ」のみが同じことに気づく(4～5歳)

⇒ 連絡帳を読む(文字の役割への気づき2～3歳の頃)

- ⇒ 七夕の短冊（お星様や神様などのように近くにいない人に自分の願いを聞いてほしいという強い思い）それを短冊に文字にして表す（書くのは保育者が代筆）
- ⇒ 保育者が暑中見舞いや年賀状を出す（大好きな先生に返事を書きたいという気持ちの大切さ 心情・意欲・態度の育ち）
- ⇒ 文字への関心（お便りごっこ、祖父母への手紙）
- ⇒ 文字カード、カルタの準備
- ⇒ こうした考えのもと、準備を整えて文字の獲得へ

## 14. 劇への関心

### ※ 共通のイメージと役割の分担が必要

- ⇒ 3～4歳くらいから人形劇のような遊びをする(年長や保育者の影響)
- ⇒ 自分たちの好きなように指人形で遊ぶ(日常会話などで適当に、ストーリーがない、自分たちが楽しむ)
- ⇒ 4歳児は、年長の形だけを真似して座席を作り、年少(3歳児)を招く
- ⇒ 3歳児は人形の面白さもあり、最初は黙って見てくれる
- ⇒ 間が空いたり台詞が出てこなかったりで、3歳児も次第に退屈する(こうした失敗? 経験が必要)

- ⇒ 一生懸命したのにと憤慨しながらもどうして帰ってしまうのかを考える(少しずつ**準備不足に気づく**)
- ⇒ 再び招くがいろいろ理由をつけて集まってくれない、集まっても3歳児は戻ってしまう
- ⇒ **少しずつ改善する**(役割分担、ストーリーや人形の台詞の確認、声の大きさ、間合いなど)
- ⇒ **次第に見せる意識を持つ**ようになる(**表出から表現へ**)
- ⇒ 工夫して面白かったと言われると、**演じることの楽しさを**  
**感じられる**ようになる



## 14. 待ち伏せる保育

※ 発達過程の道筋は保育者の見守りの視点にもなる(発達の確認)

これらは子どもの発達過程であり、それぞれの時期を大切にしたい。文字の読めない時期を大切にし、失敗することも含めて大切にすることが求められる

また、発達過程は同時に保育の計画でもある。だとしたらその要所にて、保育者は子どもの発達を見守り待ち伏せたらいい(計画的で意図的な保育実践になる)

# 15. 待ち伏せる保育(玉入れ)

## ※ 年長同士のルールのある遊び

- ①運動会に使う玉入れの器具を出しておく
- ②見つけた子どもが玉入れをしたいと言う
- ③道具を出してそれぞれに遊ぶ
- ④しばらくすると5歳児が年長同士でしたいと言う
- ⑤どうしたらいいの？

⑥二つに別れるんよ

⑦二つに分けたから始めるよ

子どもたちに気づかれないように保育者が故意に一方の味方をする  
(玉の数、カゴの高さ、人数を揃えない)

⑧人数が少ない方は何度しても負ける

⑨おかしいな、どうして負けるのかな？

⑩カゴの高さが違うんかな？

⑪じゃ、比べてみる、同じにしたよ、もう一回

それでも負ける

⑫おかしいな、玉の数は？

⑬数えて同じにしたよ、もう一回

それでもまた負ける

⑭人数かな？人数も同じにして

⑮分かった、同じにしたよ、もう一回

それでもまた負ける



①⑥あつ、先生たちは入らんとして

①⑦そうしてやっとそのチームが勝った

※ 子ども自身が工夫したり、気づいたり、考えることが含まれていてこそ保育

この保育者と子どもたちのやりとりの特徴は？

保育者が全てを整えてゲームをするのではなく、子どもが自分たち気づけるように配慮していること

これを保育者は待ち伏せている(計画的・意図的)



お疲れさまでした。  
お気をつけてお帰りください。

